

高畠高生の活躍

高畠町地域おこし協力隊の柿木結允(かきのき・ゆいま)さんの活動の記事で、本校「高畠ゼミ」の活動の様子が紹介されました。

地域おこし隊員

高畠中

84

高畠町地域おこし協力隊の柿木結允さん(30)は、塾講師としての知識と経験を生かし、高校生にプレゼンテーションの指導をしたり、主体性を育んでもらうための取り組みを企画したりしている。「高畠町から新しい教育の形を生み出したい」と意気込んでいます。横浜国立大を卒業後、東京都内の塾で講師として活動した。現在は独立し、神奈川県で塾を運営している。昨年5月ごろ、知人が勤める長井市の会社を訪れた際、その場で高畠町役場の職員と出会った。同町の高畠高の入学人数が年々減少し、存続の危機にあるとの話を聞き、「立て直すために協力したい」との思いが芽生え、協力隊として活動することを決めた。同年9月に協力隊に着任した。昨年度は、同校の生徒が学校を存続させるというテーマの下、活動を繰り広げ

高畠町 柿木 結允さん (30) 高畠高の存続活動

プロフィール



柿木結允(かきのき・ゆいま)さんは東京都小金井市出身。都内の学習塾で講師を務めるなどし、現在は神奈川県で塾を運営している。高畠町地域おこし協力隊には2023年9月に着任した。アニメや漫画を見るのが趣味。

る「高畠ゼミ」のサポートに力を入れた。生徒が同校の現状を伝えるプレゼンテーションを高畠中で行う際は、発表の仕方について指導を行った。「ただ事実を並べるだけでなく、自分が持つメッセージを伝えよう」といったアドバイスのほか、身ぶり手ぶりや声の抑揚を付けることの重要性を説いた。プレゼンテーシ

プレゼン指導や主体性育成



柿木結允さんの指導の下、プレゼンテーションの練習をする高畠ゼミの生徒
＝高畠町高畠高

ヨンは完成度の高いレベルに仕上がりに、発表当日は中学生たちから好評を得た。本年度は「町全体を子どもたちの学びの場にする」とのテーマを掲げた取り組みを企画・実施している。「高畠アートチャレンジ」と銘打ち、地元の中高生に1万人分の写真を集めてもらい、1枚のモザイクアートを作る。活動は今月始動に、8月の青竹ちようちゃんまつりでの展示を予定している。「子どもたちが自ら考え、行動する取り組みを通し、主体性を育んでもらえたらうれしい」と語っている。(菊地健介)